

第二回 第三者認証スキーム検討委員会議事要旨

日時：平成 21 年 12 月 9 日(水) 13:00～15:00

場所：全日通霞ヶ関ビル 大会議室 B

出席者

稲葉委員長、海野委員、大沼委員、公文委員、小松委員、高橋委員、辰巳委員、野網委員、則武委員、長谷川委員

議題

- 1、カーボンフットプリント(CFP)の検証・認証に係る考え方と事例について
 - ①ISO14025 と ISO14064-3 における検証・認証の考え方
 - ②タイプⅢ環境宣言(エコリーフ)に見る検証・認証の事例(ISO14025 の一例)
- 2、検証・認証者に求められる力量について(ISO14025 と ISO14066 の対比)
- 3、その他
 - ①事業者アンケート調査の実施状況報告
 - ②CFP 計算キットのデモンストレーション
 - ③その他

議事概要

- ・ 議題 1 及び議題 2 については事務局より資料を用いて説明。議題 3 においては事務局より口頭及びプロジェクターを用いて報告と説明。議題 1 及び議題 2 については、主に以下のような議論があった。

議題 1. カーボンフットプリント(CFP)の検証・認証に係る考え方と事例について

①ISO14025 と ISO14064-3 の異なる規格を比較した意図

- ・ CFP の ISO 規格(ISO14067)を検討している ISO/TC207/SC7/WG2 での検証・認証に係わる議論では、タイプⅢ環境宣言の規格である ISO14025 をベースとしつつも、SC7 は組織又はプロジェクトの GHG の算出・検証等に係る規格を開発する場でもあることから、それらに携わる海外エキスパートからは、ISO14064 シリーズ及び ISO14065 の規定を活用したいとの意見もあり、特に ISO14064-3 への理解も必要であるため。

②CFP 及びエコリーフにおける検証について

- ・ CFP の検証作業が負担になると普及の妨げになる可能性がある。例えば、検証者が経験を積めば、検証者のチェック結果を上位の委員会がダブルチェックするような仕組み

を避けるなど、低コストで作業負担の少ない検証の仕組みを考案すべきである。

- ・ ISO14064-3 における GHG 検証の頻度はせいぜい年 1 回程度と想定される。CFP の場合は、年間に複数回の検証申請が想定されるので、その点を考慮して検証・認証スキームを検討すべき。(第一回委員会資料にて提示されたシステム認証方式についてももっと検討されるべき。)
- ・ 今後の CFP 制度試行事業での検証では、CFP 計算キットの普及や検証に必要な様式類等を整えることで事業者負担の軽減を図るべきである。

議題 2. 検証・認証者に求められる力量について(ISO14025 と ISO14066 の対比)

- ・ 一般に、人の力量は知識と技能に区分けされる。知識に関しては筆記試験等、評価方法が明確だが、技能についての評価方法には難しさが存在するので、慎重な検討が必要である。
- ・ 力量には EMS¹⁾審査員など既存の環境関係の資格の要件と重なる部分があると考えられるので、共通性の上に CFP 検証・認証者特有の力量を追加要件とする案も考えられる。その際は、業種や業界の専門性も考慮する必要がある。
- ・ CFP は排出量の情報開示であるので、GHG クレジットの検証者ほどの要求は過度かも知れない。むしろ、EMS、QMS²⁾、更には ISO50001 のエネルギーマネジメントシステム認証も出てくるので、それらとの検証・認証のワンストップサービスや検証・認証者の力量の整合性の検討が必要である。

1) EMS : Environmental Management System(環境マネジメントシステム)

2) QMS : Quality Management System(品質マネジメントシステム)

議題 3. その他

①事業者アンケート調査の実施状況報告

- ・ 事務局より、「回答期日まで数日を残しているので集計にも入っていない段階だが、回収率は高いと想定される。」旨を報告。

②CFP 計算キットのデモンストレーション

- ・ 事務局より、プロジェクターにより CFP 計算キットを投影し説明。同ソフトの使用開始時期については 2010 年 1 月末頃を予定と説明。
- ・ 事業者の負担が増えることなく、計算が簡易化されるツールとなることを期待する。

③次回の開催予定

- ・ 2010 年 1 月下旬に開催する予定を確認。

以上